

『当時の思い出』 榎 敏秀（平成 21～22 年度会長就任）

在任期間中、折に触れ会員各社に唱えてきたことは業界の構造改革でありました。事業環境の変化に伴い、私たちが中核事業とする「保管」という機能の価値が後退しつつあり、商品の高回転に対応した周辺業務をも取り込む、より幅広い「物流」へと展開すべきだと考えたからです。その主張が、今、現実となっているのか、「オオカミ少年」扱いとなっているのかは承知するところではありませんが、業界の先駆的役割を担う東京冷蔵倉庫協会として成熟化するマーケットのなかで進むべき方向性を示すことは必要だったと考えています。

一方、広く社会には当業界の社会インフラとしての公共性を訴え、港湾地区における新設用地の確保や大震災後の電力需要の抑制目標値設定に取り組みました。前者については東京都のオリンピック誘致運動も絡み当局の理解を十分には得られていないことが心残りとなっています。

今後、押し寄せてくる大波はTPPでしょうか。求められる物流の姿が刻々と変化するなか、皆様の尚一層のご奮闘をお祈り申し上げます。



平成 21 年 11 月 27 日

「年末専門紙記者会見」（東京冷蔵倉庫協会会議室）